

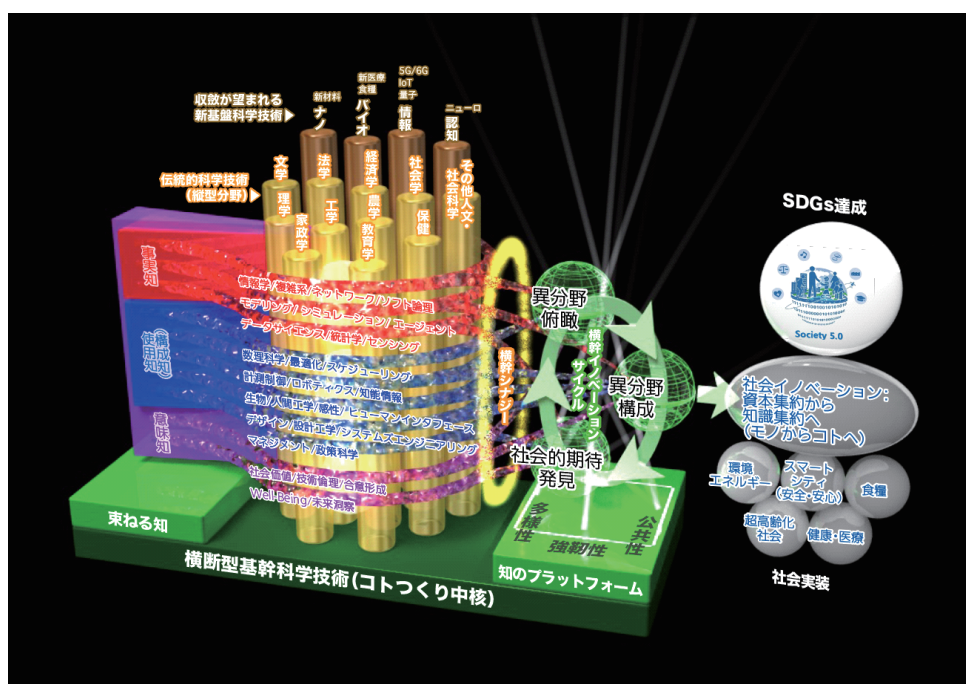
新しい横幹図

企画・事業委員会

横幹連合のパンフレットには、一目で横幹連合を理解していただけるよう、取組む学術分野の構成と活動を表す図（ここでは横幹図と呼びます）が記載されています。これまでの横幹図は、縦型基盤科学技術や新分野、融合・複合領域の具体的な事例を縦軸に示して、これらを様々な横断型基幹科学技術が取り巻いて、課題解決の実践や知のプラットフォームの構築に寄与する姿が描かれていました。簡潔かつ的確に横幹連合の成り立ちと活動をあらわすものとして、設立当初よりこの横幹図は継承されてきました。

しかし、産業界との会合の中で、設立 15 年以上を経たにもかかわらず、横幹連合の活動には何の進展もなかったのか、また、社会からの関心が得られるような魅力的な言葉を織り込んでゆくことが必要ではないかといったご指摘をいただきました。

このご指摘に応えるべく企画・事業委員会では具体的な対応の検討に着手いたしました。様々な議論の結果、2008 年に吉川弘之名誉会長が示された横断型基幹科学技術とは「事実知」「使用知」「意味知」の三つ組みの科学の統合であるとの捉え [1]、さらに、時期を同じくし



- ・横断型基幹科学技術は、伝統的科学技术分野等を横断する「束ねる知」として、「異分野を俯瞰する事実知」「異分野を統合する使用知（構成知）」「社会的期待を発見する意味知」に関わる知見を様々な観点から追究します。
 - ・横断型基幹科学技術は、伝統的科学技术等を束ねて既成概念にとらわれない持続可能な社会に向けたイノベーションを生み出す「知のプラットフォーム」の形成を目指します。
 - ・横断型基幹科学技術は、この「知のプラットフォーム」を社会実装することで、スマートシティ、健康・医療などの具体的な社会システムの構築に寄与し、Society 5.0の実現と持続可能な目標（SDGs）の達成に貢献します。
- この図では、伝統的な科学技術分野を、総務省における学問別研究用語解説に基づいて記しています。また、新基盤科学技術は、米国立科学財団により収斂（相乗的結合）が必要であるとして提唱された分野を記しています。Society 5.0のロゴは内閣府ホームページを利用。

Fig. 1. The New Okan Diagram.

て取り組まれた横断型基幹科学技術のロードマップの開発で示された社会的な課題の解決策を導く上での「知のプラットフォーム」概念が、これまでの横幹連合の活動の基盤を形成してきており、これは今後も継承されるべきであるとの方向付けがなされました。これに沿って、横断型基幹科学技術が3つの束ねる知となって、知のプラットフォームを形成しつつ社会的な課題解決に貢献するという大枠が作られました。

さらに、この結果を踏まえて、縦型の科学技術として何を想定すべきかとの議論もなされました。伝統的なすべての学問分野を対象とすべきであるとの意見から、国で定めている学術分野の表記（総務省統計局による）を取込むことといたしました。しかし、これらの表現だけでは、新しい分野に対する姿勢がみられないということから、米国国立科学財団によって提起された収斂（相乗的結合）が望まれる4分野である「ナノ」「バイオ」「情報」「認知」が加えられました。

この素案は、会長懇談会でのご意見を反映した上で、専門家による図案作成に進みました。担当いただいたのは、日本デザイン学会から推薦されこれまでも横幹連合コンファレンスのポスターやパンフレット作りに携わっていただいていた札幌市立大学教授・柿山浩一郎先生です。多くのデザイン案をいただいて、最終的に**Fig. 1**の図案が選ばれ、横幹連合2022年度定時総会で新しい横幹図として紹介されました。

横幹連合にかかわる多くの方々は、様々な分野と連携して課題解決や新領域の形成に取り組んでおられると思いますが、テーマ立案や仲間づくりの折に、この新たな横幹図を活用いただければ幸いです。（船橋 誠壽）

参考文献

- [1] 横幹連合ニュースレター, No. 014 July 2008. <https://www.trafst.jp/nl/014/report.html>